

令和2年度

岐阜県青少年赤十字 防災教育推進事業活動事例集

はじめに

活動事例－1 山県市立伊自良南小学校 … P. 1～3

活動事例－2 大垣市立青墓小学校 … P. 4～5



2022年は青少年赤十字創設100周年

はじめに

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

青少年赤十字では、これらの実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育を通して自然災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めることで、人間のいのちと健康、尊厳を守ること目的として、プログラム及び教材の開発、研究を進めています。

岐阜県支部におきましては、上記目的の達成に向けて、開発、研究されたプログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」等を活用した取組、また、教育現場における実践的、先進的な取組を支援することで、本県のJRC加盟校における防災教育の発展、普及を目指しています。

本事例集では、今年度防災教育推進校として指定されたJRC加盟校の実践が載せられています。「自分のいのちは自分で守ること」に注力した取組、児童・生徒が防災教育で学んだ内容を、家庭や地域住民に対して普及する活動、地域等の組織(消防団等、奉仕団、気象台等)との協働に関する取組など、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、防災について学んだ実践が綴られています。

自然災害は忘れた頃にやってくると言われていますが、この事例集が、多くの学校において防災教育推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいた防災教育推進校の校長先生方にお礼を申し上げるとともに、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

令和3年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

活動事例ー1 山県市立伊自良南小学校

学 校 名	山県市立伊自良南小学校 (校長 中村 純子)
活動の種類・単位	防災教育について 全校児童、保護者、地域住民
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動

1 活動テーマ

「学校・家庭・地域の三者で学び合い、気付き、考え、実行する防災学習」

2 主な活動内容

(1) 校舎内危険予測訓練<日 時> 令和2年12月19日(土)

① 防災ゲーム(学級活動)45分

東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓から制作された教材を活用して、学年の発達段階に応じて防災への関心を高めた。

	1年生～4年生	5年生、6年生
使用教材	東日本大震災の被災体験を反映した防災カードゲーム 「みんなで遊んでたすカルテット」	東北大学リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」受講生有志が開発した 「減災アクション！カードゲーム」
事前指導	事前に、カードゲームにかかわる職員研修を位置付け、学年の発達段階に応じて、どのようにカードゲームを進めるとよいのかを協議した。そのため、1年生であっても、やり方に戸惑うことなくカードゲームを進めることができ、また、ゲームを通して、日頃からの備え、災害時の身を守る方法等、関心を高める学びの時間となった。	
授業の流れ	導入：ゲームについての説明、展開：ゲームを行う、まとめ：学んだことを交流する	
具体的な姿	「地震」「津波」「サバイバル」など防災に関する10のテーマごとに4枚1組のカードを揃えるゲーム。テーマとキーワードを繰り返し読み上げることで、防災に必要なことを覚えることができる。学年の発達段階に応じて、テーマを絞る等、まとめの方法も工夫することができていた。	災害発生時に、自分の身を守るためにどう行動するかを考えるゲーム。カードを選んだ根拠について、災害が発生すると、どのような状態になるから…という危険を予測し、その上でどのような行動をとるべきかを具体的に、自分の言葉で語ることができていた。



② 校舎内 危険Ｋ予測Ｙ訓練Ｔ(特別活動:児童会活動)90分

段階	時間	内 容
導入	10分	岐阜大学 減災・防災センター 村岡治道准教授より、校舎内を探検する際の視点についてのお話を聞く。
展開	35分	<p>縦割りのグループ単位で、校舎の各階を回る。地震の際、落ちてくるもの、倒れてくるもの、移動してくるものは何で、だからこそどういう行動をとるのかを実際に動いて確かめる。特別教室での学習活動を具体的に想起しやすくするために、実験器具や実習時の用具等を置き、特別教室での授業の体験が少ない低学年の児童にも、活動集の災害を想起しやすく述べた。</p> <p>また、災害時の状態を想起しやすくするために、最高学年のリーダーである6年生が、事前に総合的な学習の時間を活用し、一人一台iPadを活用して、被害の状況を想起できる写真等を提示できるように予め準備した。当日は、危険なものや、危険な場所を考えた話し合いの際、iPadの写真を提示することで、実際に地震が起きた時の状態を捉えることができ、危険を予測、想起しやすくなる効果があった。また、教室に戻っての縦割りグループのまとめでも、図書室を例にして、誰もが普段利用する図書室の危険を具体的に挙げ、その時、どのような行動をとるとよいのかを説明し、学習のまとめを行った。</p> 
まとめ	45分	オンライン会議システムを活用し、6教室にて、縦割りのグループ単位で、岐阜大学 減災・防災センター 村岡治道准教授のお話を聞く。地震が起きた時には、机の下で隠れることがいつでもよいわけではなく、落ちてくるもの、移動してくるもの、倒れてくるものを正しく見極め、安全な場所を見つけて、ダンゴムシ(ひざを開いて頭を守る)のポーズをとることが大切であると学んだ。きっと大丈夫との思い込みで行動するのではなく、日頃から危険を予測して備える。

③ 防災食体験

アルファ化米の五目御飯を食べる。調理過程の動画をテレビで視聴し、実際の災害時には、防災食がどのように利用されるのかを知る。今日は、熱湯を注ぐことで調理時間の短縮(15分)ができたが、加熱できない場合、水でも時間をかけければ(50分)同様の状態になることを知る。

(2)情報モラル学習会<日 時> 令和3年2月12日(金)(特別活動:学級活動 70分)

新型コロナウイルスによりこれまでの生活が一変した状態を考えれば、これもまた突発的災害と言える。子どもたちの生活で心配される点の一つにメディアの視聴時間の長さ、情報端末を通してつながることによるトラブル等であった。そのため、情報モラル教育研究所から上水流信秀先生を講師としてお招きし情報モラル学習会を行った。



事前	10日前にWebによりメディア視聴にかかる調査を実施、対象は全長子家庭
当日	基本となる講演「だいじょうぶ？あなた！」6年は対面、4、5年はオンライン配信 ワークショップ「仲間外しだしたら…こんな気持ち？」
事後	講演内容を保護者に伝え、家庭でのメディアの約束について再検討や見直しを呼びかける

3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した授業

(1) 実施した学級等

学年	学級数	参加者数	主な内容・参加対象者
全校	全学級	約130名	参加対象者:全校児童、教職員、時期:6月 ねらい:緊急地震速報について知り、学校での地震が起きた場合には、どのような行動をとればよいのか、避難経路について理解する。

			活用頁:ワークシート1、2 「地震、緊急地震速報を活用して身を守ろう」
全校	全学級	約130名	<p>参加対象者:全校児童、教職員、時期:9月 ねらい:令和2年7月豪雨では、日本付近に停滞した前線の影響で、岐阜県でも大雨特別警報が発表され甚大な被害が発生。ハザードマップを見て、危険を回避し命を守る行動をとることの大切さを理解する。</p> <p>活用頁:ワークシート4 「台風・豪雨を知ろう」</p>
全校	5年6年	約41名	<p>参加対象者:5年、6年児童、教職員、時期:1月 震災当時は小学校6年生だった志野ほのかさんの話を聞くことで、災害は想定外のことが起こり得る、状況に応じて正しく判断して行動することが命を守ることに繋がること、日頃からの備えが大切であると学ぶ。</p> <p>活用頁:ワークシート3 「津波から身を守ろう」</p>

(2)児童・生徒、授業者の感想等

・机の下に隠れても命を守ることができないこともあるということを初めて知った。学校は安全な場所ではなく、落ちてくるもの、倒れてくるもの、移動してくるものがいっぱいある場所だと分かった。iPadの写真から、危険がなさそうな場所でも、地震の時には大きな被害となることが分かった。普段からそういう目で見ないといけないと思った。

4 事業の成果、効果等

- これまでの災害を教訓とした制作された教具を活用することで、1年生から6年生までが無理なく、災害を防ぐための術を意識でき、日頃からの備えの大切さを理解できた。特に、縦割り単位、オンラインでの視聴等、多様な形態により、過去の災害から学び、未来を考える学習の可能性が広がった。今後も想定外にも対応できる力を身に付けられる防災学習を目指して、改善を重ねていきたい。
- コロナ禍のもと、地域での防災訓練等や授業参観もできない状態の年度ではあったが、子どもも大人も過去から学び、安心安全な未来をつくるとの構えで、防災教育を考え、学校運営協議会で取り上げながら、関係諸機関と連携したコロナ禍、新しい生活様式のもとでの防災学習を目指していく。

活動事例－2 大垣市立青墓小学校

学 校 名	大垣市立青墓小学校 (校長 坪井 秀憲)
活動の種類・単位	防災教育について、外部講師や機関、機会を活用して実践した。
教育課程上の位置付け	学校行事・総合的な学習の時間

1 活動テーマ

命の尊さを知り、自分の命は自分で守る子どもの育成

2 主な活動内容

- (1) 命の尊さを伝える講話
- (2) 想定を変えた命を守る訓練
- (3) 自助・共助・公助を知る防災学習

3 事業の実際

- (1) 命の尊さを伝える講話



2月19日の「いのちの授業」では、NPO法人「エフ・フィールド」から講師を招いて4部構成で行った。

- ①日野原重明医師の教えのDVD「十歳のきみへ いのちの授業」を視聴する。
- ②聴診器で自分や友達の心音を聞く体験を行う。
- ③講師の方から、命の使い方や命のつながりのお話を聞く。
- ④感想を書く。

4年児童の感想

自分やみんなのために生きたい、長く生きたいと思うことができてうれしかったです。これから自分やみんなのことを思って生きたいです。(1組男子)

いのちには時間が限られているから、その大事な時間を自分のためだけではなく、相手のためにも使ったりすることはとてもすごいことだと思います。わたしは、これからもいいことをたくさんしていきたいと思いました。(2組女子)

(2) 想定を変えた命を守る訓練

回	期 日	時 間	想 定	備 考
1	令和2年 6月 19日(金)	帰りの会	帰りの会のときに地震発生	予告無し
2	令和2年 9月 1日(火)	掃除の時間	防災の日、掃除の時間に地震発生	予告無し
3	令和2年 11月 9日(月)	昼休み(中)	校舎内の昼休みに地震発生	予告無し
4	令和3年 2月 3日(水)	昼休み(外)	運動場等で遊んでいるときに地震発生	予告なし



児童の密集を避けるため、避難場所へ児童を集めることはできなかったが、様々な時間帯で「予告なし」で、地震発生を想定した訓練を数多く行った。

(3) 自助・共助・公助を知る防災学習



国土交通省の「防災河川環境教育事業」を活用し、3時間で「自助」「共助」「公助」を児童は学んだ。第1時で、「9.12豪雨災害」と呼ばれた昭和51年の長良川堤防決壊による大洪水を取り上げ、自然災害の恐ろしさを伝えた。授業後の感想で、ある児童が「何もかもが初めて聞く内容だったので驚いた。身近にこんな危険があることが学べてよかったです。」と話した。

4 事業の成果、効果等

- コロナ禍のため、非常食を食べさせたり、保護者を招いたりするなど、当初計画していたことを実践することができなかつたが、様々な機会を通して、命の尊さを伝えたり、外部講師を招いて「いのちの授業」を行ったりすることができた。「いのちの授業」は、来年度も実践していきたい。
- 時間帯を変えた「命を守る訓練」を児童に予告なしで行うことで、地震速報が鳴ったときに、児童は、その場の状況を判断して、ダンゴムシポーズを作ったり、机の下にもぐったり、運動場の中央に集まって座ったりといった、命を守る行動がとれるようになった。訓練を行うときには、本事業で購入したトランシーバーやヘルメット等を活用することができた。
- 4年生を対象とした防災授業では、国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所と連携することで、3時間の学習計画作りや教材の準備を手伝ってもらうことができ、とても価値のある授業を行うことができた。来年度以降も継続していきたい。



ちかい

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

令和2年度

岐阜県青少年赤十字防災教育推進事業活動事例集

令和3年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市西部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938